

最終処分場計画にかかわる歩み

平成 17 年

- 4月 穂高広域施設組合処理施設検討委員会（第1回）
- 6月 同最終処分場用地選定作業部会の設置
- 7月 作業部会による県の中信地区廃棄物処理施設候補地選定計画説明会
- 12月 作業部会から検討委員会へ最終報告書の提出（用地選定方法〈ルール〉案など）

平成 19 年

- 3月 検討委員会一般廃棄物処理基本計画・一般廃棄物最終処分場基本構想等の提言内容の最終確認（第20回）
- 4月 同検討委員会より組管理者へ提言書の提出（一般廃棄物処理基本計画・一般廃棄物最終処分場基本構想・一般廃棄物最終処分場用地選定に関する提言書）
- 6月 「穂高広域施設組合一般廃棄物処理基本計画」、「一般廃棄物最終処分場基本構想・一般廃棄物最終処分場用地選定」策定

平成 20 年

- 4月 穂高広域施設組合最終処分場検討委員会（学識・有識者委員の委嘱）（第1回）
- 5月 検討委員会：公募委員の選考（第2回）
- 6月 検討委員会：公募委員の委嘱（第3回）
- 7月 検討委員会：最終処分場施設の現地視察（中野市飯山陸送ハサマ処分場・新潟県長岡市栃尾最終処分場）（第4回）

最終処分場検討委員会は、原則月1回開かれています。7月は、第4回検討委員会を開き、現在の委託先である中野市の飯山陸送（株）ハサマ処分場（右写真）と、新潟県の被覆型（クローズドシステム）最終処分場施設の視察を行いました。8月に入ってからは、候補地選定に向けた選定方法などを検討していきます。また同委員会は原則公開で行われますが、検討内容によっては、非公開で行われる場合もありますので、事前に組合ホームページや組合庶務係でご確認ください。

固穂高広域施設組合

TEL 82・2147 FAX 82・8779

URL <http://www.anc-tv.ne.jp/~hotaka-c/>



自らの処分場を

穂高広域施設組合では、この最終処分場の問題を踏まえたうえで、平成17、18年度に「穂高広域施設組合処理施設検討委員会」を組織し、「穂高広域施設組合一般廃棄物処理基本計画」を策定しました。

この計画では、管内の住民・事業者に対して、ごみ減量の徹底を図り、それでも出てしまうごみは焼却するという姿勢を示しています。

そして、焼却灰の最終処分については、自ら出したごみは自ら処理・処分する「自区内処理の原則」に基づき、管内で最終処分施設を確保することとし、この施設は将来にわたり組合が適正に管理する責任を負うことを目指しています。

また、この計画の策定と同時に「一般廃棄物最終処分場整備基本構想」も策定しました。この構想では、埋立容量や整備に必要な面積、供用開始の目標年度が示されたほか、次世代型の施設と言われている被覆型

自区内の責任で処分することを 目指します

（クローズドシステム）最終処分場施設を採用することなどが盛り込まれました。

そして最初の建設地は、組合構成市町村のうち、人口やごみ収集量が最も多い安曇野市内とすることとしています。

年度内に候補地選定

組合が策定した「ごみ処理基本計画」と「最終処分場整備基本構想」に基づき、最終処分場の整備に向け検討するため、最終処分場検討委員会を今年4月に設置しました。

なくてはならない大切な施設

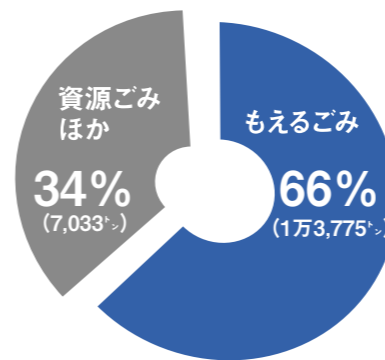
「もえるごみ」が、今すぐに安曇野からなくなることは、考えにくいと言えます。それだけに最終処分場は、私たちの暮らしに欠かせない大切な施設となります。ごみ減量、分別を積極的に図るとともに、市民全体の問題として、この問題を考える必要があります。

安曇野市から「もえるごみ」は、どのくらい出ているか？

年間2万808^トの家庭ごみを排出！

（およそスペースシャトル10機分の重さ）

もえるごみの量を 市民1人あたりに換算すると・・・。



年間 141^{キロ}
1日 388^{グラム} （およそ食パン1斤分の重さ）

もえるごみは焼却灰となり、もとの7～8%の重量になります。また、もえるごみの焼却灰は、埋め立てごみの8割近くを占めます。

※資料は、平成18年度安曇野市の家庭系ごみ量、平成19年3月31日現在市人口から作成